

令和6年度 江戸川区立松本小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○やさしい子 ○考える子 ○やりぬく子 ○健康な子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	一人一人の子どもの笑顔が光り輝く学校 「通ってよかった!」「通わせてよかった!」「動めてよかった!」 ◎自ら考え、主体的に判断し、行動する児童 ○自分も友達も大切にする思いやりのある児童 ○困難に負けず、最後まで粘り強く取り組む児童 ◎子どもに寄り添い、心から愛情深く接する教師 ○プロ意識をもち、「授業改善」に向けて、常に学び続ける教師 ○同僚性を高め合える教師
前年度までの本校の現状	成果	○基礎・基本的な定着を目指したレベル別の指導を、年間を通して実施したことで、学習に前向きに取り組む児童が増えた。 ○ヤギ飼育やヤギとの触れ合いを通して、多くの児童が命の大切さを考える契機となった。 ○様々な取組を通して、児童が落ち着いて生活できる環境を整えることができた。	課題	○児童の学習の基礎・基本の更なる定着や主体的・対話的で深い学びとなる授業スタイルの確立などが早急の課題である。家庭との連携も含めた学力の向上について考えていきたい。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクト（めざましスタディ、ランチスタディ等レベル別個別指導）の確立 ・「江戸川っ子 study week」による家庭学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が学力を高めようとしていると回答 ・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「すすんで学習に取り組む」と回答 	A	A	A	○全国学力・学習状況調査において、CD層の割合を、昨年度より約20%下げることができた。めざましスタディ、ランチスタディの効果が見られる。	A	・個別指導が充実して、児童の意識が高まっている。 ・CD層が減るのは、とても良いことである。	A	○めざましスタディ、ランチスタディ年間を通して実施したことで、「勉強がわかる」児童が96%であった。	A	・継続的な授業改善をこれからも進めていってほしい。	○学力向上に向けた良い取組は、次年度も継続し、更なる向上を図っていく。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書科ノート」を活用した探究学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「調べるのが好き」と回答 	A	B	A	○調べる学習コンクールに応募した児童の割合は95%であった。 ○講師を招き、「読書科ノート」を活用した授業方法の研修会を実施した。	A	・夏休みの調べる学習の定着がなされてきている。 ・自分で興味をもって調べる力は大切なので、今後も継続してほしい。	B	○読書科の充実を図ったことで、「わからないことを調べたり、友達と話し合ったりする活動が好き」な児童が88%であった。	A	・定着しており、今後も継続が望まれる。 ・通常時の学習との連携を強化していってほしい。	○調べる学習の日常化をさらに推進していけるよう、新たな取組を考えていく。
	○体力向上を図る日常的な取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「江戸川っ子縄跳びチャレンジ」を意識した縄跳びを日常的な取組及び運動量が確保された体育の授業の実施 ・体力テストの結果による個の体力目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「体育や外遊びが好き」と回答 ・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「自分が立てた目標値を達成」と回答 	B	B	B	○1学期に2週間、全校が外に出て「短縄跳び」に取り組んだ。2・3学期も同様の取り組みを行い、体力向上を図っていく。	B	・児童と教員が共に行っている姿がとても良い。 ・今後も体力向上を図ってほしい。	A	○「短縄跳び」「持久走」に全校で取り組み体力向上を図ったことで、「体育や外遊びが好き」な児童が89%であった。	B	・教員と児童と一緒にいることが良いと思う。 ・体力向上は今後も必要である。	○江戸川区の取組である「短縄跳び」と本校独自の取組である「持久走」を今後も継続し、更に高められるよう考えていく。
体力の向上	○家庭における日常的な取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で取り組むことができる体力アップ事例の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へのアンケート結果で、80%以上の保護者が「体育や外遊びなど、体を動かすことが好き」と回答 	A	B	A	○体力テスト前に、親子で取り組むことができる体力アップ事例集を配布し、家庭での取組を励行した。	A	・親子で取り組むことはとても良いことだと思う。	B	○「体育や外遊びなど、体を動かすことが好き」と回答した保護者が87%であった。体力テスト結果を反映させた体力アップ事例集が配布できなかった。	A	・親子の取組は、とても良い。 ・体を動かすことは大切だが、なかなか自由に遊べる公園などが少ない。	○今年度、家庭と連携をとるために行った体力アップ事例集を更に良いものにしていく。
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSW、巡回指導、特別支援教室専門員の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施 	B	A	A	○SCやSSWと常に連携を取ることで、支援の必要な児童や家庭の背景が分かり、その後の指導に繋げることができた。 ○特別支援担当教員と週1回以上打ち合わせを行うことで、同じ方針で指導にあたった。	B	・様々な機関と連携をとることはとても大切だと思う。今後も継続し、個に応じた指導を行ってほしい。	A	○SCやSSW、特別支援担当教員と常に連携を取ることで、日常の指導や保護者との面談に生かすことができた。配慮を要する児童に対し、今後も必要な支援を行っていく。	A	・日常の連携が必要である。今後の活動についても、計画的に推進していってほしい。	○SCやSSW、特別支援担当教員と連携を取り、困り感のある児童に寄り添った指導をしていく。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回以上の実施 	B	B	B	○2学期より副籍交流を行っていく。特別支援学校担当教員と連携を密にし、実りある交流を実施していきたい。	A	・特別支援学校の児童との交流を通して、児童には多くのことを学んでもらいたい。	B	○2学期に2回副籍交流を行った。3学期も実施することで、児童には多様性を学ばせていく。	A	・副籍交流の好影響なのか、優しい児童が増えたように感じる。	○今後も年間指導計画に基づいた交流及び共同学習を実施していく。
実現に向けた共生社会の教育の推進	○障害理解を深める取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ選手との交流、障害理解を深める授業等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生によるパラスポーツ選手との交流、障害理解授業の実施 	B	B	B	○3・4年生で障害理解を深める授業を実施した。 ○教員のポッチャ研修を実施した。今後、児童のポッチャ体験を実施していく。	A	・ポッチャ体験やシッティングバレー体験を通して、障害理解を深めている。ぜひ多くの学年で実施できるとよい。	B	○中学年で外部講師を招いて、ポッチャ体験やシッティングバレー体験、4年生への手話教室を行うことで、理解を深めることができた。	A	・障害理解教育を実施することで、理解を深めることができた。今後も継続してほしい。	○来年度も計画的に、より多くの学年で体験を通じた理解教育を継続していく。
	○豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「松本スタンダード“人として”」の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童へのアンケート結果で90%以上の児童が「学校が楽しい」と回答 	B	A	B	○「人として」の重点目標を月ごとに決め、全ての学級で週1回読み合わせを行い、児童に意識させている。今後も継続していく。	A	・学校は、児童にとっても、教職員にとっても、楽しい場所であってほしい。ぜひそのような学校にしてほしい。	A	○年間を通して「人として」を意識させたことで、また、徹底したを行ったことで「学校が楽しい」児童が92%だった。	A	・今後も学校が楽しい場所であってほしい。残り8%の児童の分析も行い、ぜひ100%を目指してほしい。	○今後も「人として」を常に意識させることで、全ての児童にとって安心できる学校であり続けていく。
	○Hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のHyper-QUの実施と研修を通じた活用の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目のHyper-QUの結果より、2回目において満足している児童数の増加 	B	B	B	○Hyper-QUの1回目の結果を分析し、取組計画をたてた。実施することで改善を図っていく。	A	・Hyper-QUの結果を学校生活に生かすことで、より楽しい学校になるようにしてほしい。	B	○今後示されるHyper-QU2回目の結果を基に、1回目後に設定した取組計画の妥当性を検証していく。	A	・学校が安心できる場所として児童が生活できるように、今後もしていってほしい。	○Hyper-QUをさらに活用できるように、2回目の実施時期や結果の活用方法を考えていく。
不登校・いじめ対応の充実	○教育相談の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・SC他関係機関と連携した校内体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCとの週1回の情報交換会の実施 	A	A	A	○SCとの週1回の情報交換会を実施し、それをもとに多くの対応をとることができた。今後も継続していく。	A	・今後も関係機関と連携し、多くの目で、児童の成長を見守ってほしい。	A	○SCをはじめ、関係機関と連携し対応にあたったことで、当該児童や保護者により良い対応をすることができた。	A	・今後も関係機関と連携し、配慮を要する児童やその保護者の支えとなってほしい。	○今後もSC他関係機関と連携を深め、どの児童にとっても居心地の良い学校を作っていく。

学校(園)の開かれた実現	地域社会に	○学校(園)ホームページの充実等	・学校ホームページの週1回以上の更新	・学校関係者評価、保護者アンケートの学校の情報発信について、肯定的に回答する割合が90%以上	A	A	A	○学校ホームページは、ほぼ毎日更新ができています。また、学年ごとの取組も、実施後すぐにホームページにアップし、情報発信に努めている。	A	・ホームページで学校のことを知ることができるのはとても良い。	A	○ホームページをほぼ毎日更新し、積極的に情報を発信したことで、「ホームページ等で伝えている」と回答した保護者が93%であった。	A	・ホームページをとおして、学校の様子がよく分かる。 ・情報の整理が必要である。	○地域や保護者の声も聞きながら、更により良いものにしていく。
		○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年3回の学校関係者評価の開催	・事前に学校関係者評価の内容を学校評議員に提示し、課題や取組を明確にして学校参観を実施し、評価につなげる。	B	B	B	○学校評議員に取組項目と取組内容を事前に提示することができた。江戸川区の教育施策を受け、重点項目も設定することができた。	A	・今後も学校関係者評価を通して、学校がより良くなるための手立てを考えていきたい。	B	○事前に評価内容を示した上で年3回の学校関係者評価を実施したことで、学校の取組や課題を重点的に評価していただけた。	A	・事前に資料を提示していただけたことが良かった。	○今後もより学校評議員の方との連携を深め、より良い学校づくりに取り組んでいく。
		○愛校心を醸成する教育活動	・「実のなる木」活動の充実	・学校生活に関するアンケート項目の地域に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上	B	A	B	○2年生のさつまいも、4年生の梨、5年生の米の活動に取り組んだ。他学年についても今後取り組んでいきたい。	A	・「実のなる木」の活動を通して、児童は本物の体験ができている。今後も協力していきたい。	A	○全学年で「実のなる木」の活動に取り組んだことで、地域に対して肯定的な回答をした児童が84%、保護者が90%であった。	A	・「実のなる木」の活動を十分に生かすことができている。	○今後も児童が自主的に学び続けられる活動を生み出していく。
教育の展開	特色ある	○自他を含めた全ての生き物の命を大切に育てる心の育成	・なかよし班を中心とした全児童によるヤギの飼育	・児童へのアンケート結果で、90%以上の児童が「命の大切さ」について肯定的な回答	B	A	B	○なかよし班や委員会活動を中心に、ヤギの飼育に取り組んでいる。また、地域や卒業生も含め、30組以上の方のボランティア登録がある。	A	・ヤギの飼育は大変意義のあるものである。この経験を通して、児童には命の大切さを学んでほしい。	A	○ヤギと児童の日常的な触れ合いを実施したことで、「命の大切さ」について肯定的な回答をした児童が91%、保護者が98%であった。	A	・生き物飼育をとおして、多くのことを学んでほしい。	○3年間で実施してきたヤギとの触れ合い活動をより良いものにしていく。
		○来年度の統合に向けた取組の実施	・閉校式児童実行委員会による準備及び統合に向けた環境の整備	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が「地域に貢献したい」と回答	A	A	A	○児童による閉校式に向けた準備が着々と進んでいる。 ○教職員も夏休みを利用して、鹿骨小と連携し、引っ越しに必要な備品・消耗品の最終チェックを行うことができた。	A	・閉校に向け、児童が「松本小で良かった。」と心から思えるような、教育活動をしてほしい。	A	○閉校式に向けた準備(環境面・心情面)を計画的に進めていることで、「地域に貢献したい」児童が84%であった。	A	・新校に移ったとき、配慮が必要な児童への十分な対応をお願いしたい。	○松本小の良き伝統を、鹿骨松本小学校にも受け継いでいく。
		○働き方改革の推進	・マイ定時退勤日の設定	・1か月の残業時間が45時間を超える教職員が0人	A	B	B	○7・8・9月は残業時間が45時間を超える教職員が0人であった。定時退勤日の実施率をさらに高められるよう、仕事の効率化を図っていく。	A	・教職員の環境は、児童にとっても、とても重要である。ぜひ今後も取り組んでもらいたい。	B	○45時間を超える教職員は、月によって若干名居るが、早く退勤できる日は定時退勤を目指すなど、意識改革が行われている。	A	・児童の行事を減らすのではなく、児童と無関係な部分を減らして改革を進めてほしい。	○児童にとって良いことを考えて、働き方改革を進めていく。